

平和に感謝して～これからの私たちにできること～

6月23日 沖縄慰霊の日

沖縄戦は、地上戦となり、多くの一般市民も含め日米合わせて20万人以上の方々が亡くなりました。その6割を占める12万人が一般市民だったのです。沖縄戦は、日本本土を守るため、沖縄になるべく米軍を引き留めて時間を稼ぐための持久戦だったことも知りました。日本軍の兵力を補うために、10代の生徒まで戦場に動員されました。「ひめゆり隊」の存在も知りました。看護要員として動員された240名のうち半数以上の136名も死亡しています。沖縄で落とされた爆弾の数はおよそ11万発。死の恐怖と常に隣り合わせだった沖縄の人たち……。生きることさえ許されなかった……「集団自決」。家族でどんな思いで一緒にいたのだろう。そして、どんなことを考えて亡くなっていったのだろう。79年前のことだけれど、同じ日本で起きていることとは、考えられないくらい、今の私たちには、想像できないくらい、つらく苦しい日々だったと思います。私たち神西小6年生37名は、この日をきっかけに戦争について、平和についての学びを始めました。

私たちは、総合的な学習の時間に、平和学習語り部ボランティアの須田先生にお話を聞く機会を得ました。そこで、私たちが住むこの出雲にも、大社基地など様々な戦争のつめ跡が残っていることを知りました。斐川の大社基地もアメリカ軍に攻撃されていると聞き、驚きました。また、斐川から私たちが住んでいる神西まで、結構はなれているから、神西は安全な場所だったのだろうと予想していました。しかし、アメリカの戦闘機が1分30秒からず来ることができると聞き、神西もいつ攻撃されてもおかしくない場所だったと分かり、とても怖くなりました。

また、当時の暮らしの様子もお聞きしました。学習については、今のような勉強というより

も作業的な時間ばかりでした。当時の私たちと同世代の人たちは、学校の校庭を畑にするために耕し、みんなの食料にするためにサツマイモを作りました。また、海岸に行き何度も海水を運び天日干しすることで、食塩不足の解消のために働きました。その海岸で少しの時間、海水浴を楽しもうとしている時もアメリカの戦闘機が飛んできて近くの松林に逃げたこともあったと聞きました。遊ぶ時間でさえ気を抜くことが許されなかった時代だったのだと思いました。食べ物にもとても苦労されたそうで、お茶碗に麦か大根、イモ、その上にふりかけのように少しのお米がかかっているのが一度の食事でした。お腹がすいてもおかわりはできず、いつもおなかをすかせて、働き、心穏やかに過ごせない日々……。私たちには耐えられなかったであろうと、当時の子どもたちがかわいそうでたまらなくなりました。

お話を伺った学習の最後に、「私たちにできることは何だろう……。」とみんなで考え話し合いました。戦争はあってはならないことだと決意し、過去に何があったのか戦争のことをもっと知ること。正しい知識を身につけること。そして悲しかった事実を伝えること。79年前に戦地で、日常生活の中で、命をつなぐために様々なことと戦った方々がいてくれたから、私たちが何不自由なく生活できている今があることに感謝すること。自分の命を大切にするとともに周りの人の命も大切にすること。そして、暴力ではなく、言葉を大切に過ごしていくこと。小学6年生の私たちにもできることはたくさんあります。平和な世界、平和な未来を願って、私たちは学び続け、行動し続けていきます。

令和6年8月4日

出雲市立神西小学校

郷原 優沙希 安部 恭史 小村 莉加 元田 優妃

飯島 夏穂 大村 羽姫 竹内 佐輔 岩成 一華